

Shakespeareの作品におけるキリスト教の影響

～*The Merchant of Venice*に見られる

聖書の引用句を例として～

古庄 信

Abstract

Following the former study,¹⁾ the aim of this paper is to discover Shakespeare's intention in citing the Biblical quotations in his works. This time we will handle *the Merchant of Venice*. The paper also relies heavily on Steven Marx's work²⁾.

Although Portia says, "The quality of mercy is not strain'd, It droppeth as the gentle rain from heaven..."(4.1.184), this is not the only phrase from the Bible. As for the number of the quotations here, there are about three times as large as that in *Hamlet*.

If we carefully try to sew such Shakespeare's words and the words in the Bible, we may be able to find out why Shakespeare uses the metaphors in this work, or what Shakespeare's attitude to Christianity is like.

キーワード：Bible, Shakespeare, *the Merchant of Venice*

1. 本論の目的と研究方法

前回の「ハムレット」³⁾に続いて、「ヴェニスの人」(以下、MVと略。)における聖書引用表現を調べてみたい。MVといえば、後半の有名な裁判の場面におけるポーシャのセリフ「慈悲は強いられて施すものではない、恵みの雨のように天から降りそそぎ地上をうるおすものだ。」(松岡和子訳)が容易に思い浮かぶが、テキストを丹念に読んでみると、まさしく雨あられのように聖書からの(と思われる)引用がそこかしこにちりばめられていることに気がつくであろう。実際、前回の*Hamlet*においては聖書からの引用と思われる16箇所を例として挙げたが、今回のMVでは Steven Marx⁴⁾の指摘も含めて47箇所(あるいはそれ以上)から聖書引用が発見される⁵⁾。これらの引用表現を再分析することで、それらが作品中でどのようなモチーフとして用いられているのか、Shakespeareのキリスト教についての姿勢がどのようなものであったかを知ることができるとしたい。

参考文献としては、前回同様、Marxに負うところが大きい。また研究の進め方もまずドラマの進展にしたがってセリフ中に溶け込んだ引用を時系列的に並べながら、それらと原典（聖書）の箇所を対比してみるという基本に忠実な方法をとる。またMarxの指摘以外に独自に気がついた箇所についても同様に触れる。

テキストについては、英語版*The Merchant of Venice* (the Riverside Shakespeare)⁶⁾とthe Holy Bible,⁷⁾ また日本語訳はMVについては、小田島訳⁸⁾、松岡訳⁹⁾を、聖書については新共同訳聖書¹⁰⁾を用いる。

2. MVにみられる聖書引用

2.1. 第1幕における聖書引用

ヴェニス商人アントーニオの憂鬱なセリフ¹¹⁾で始まる第1幕第1場から第3場においては、聖書からの引用と思われる表現が15回見られる。このうち、Marxが指摘している箇所は8箇所（1, 4, 8, 9, 11, 13, 14, 15番の各例）、松岡が日本語訳中で指摘する箇所が7箇所（2, 9, 10, 12, 13, 14番の各例、そのうちMarxの指摘箇所と重なる部分が3箇所）、残りの4箇所（3, 5, 6, 7番の各例）は今回テキストを読んで引用と思われた箇所である。MVと聖書の各々の例を比べると次のようである。

1) *Gla.* You have too much respect upon the world. They lose it that do buy it with much care (1.1.74-75)

グラシャーノ きみはあまり世間のことをくよくよ考えすぎるんだ、世間なんて気苦労して買うほどのものじゃないぜ、(小田島訳)

For what is a man profited, if he shall gain the whole world, and lose his own soul? or what shall a man give in exchange for his soul? (Matt. 16.26)

人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。(マタイ16.26)¹²⁾

2) *Gra.* If they should speak, would almost damn those ears Which hearing them would call their brothers fools. (1.1.97-99)

グラシャーノ (世の中には妙な連中がいる...まるで「我こそは神の言葉なり、...」と言わんばかり) 連中が一旦しゃべってみろ、聞いているほうは地獄落ちだ、(松岡訳)

but whosoever shall say, Thou fool, shall be in danger of hell fire. (Matt. 5.22)

(兄弟に対して)『愚か者』と言う者は、火の地獄に投げ込まれる。(マタイ5.22)

Shakespeareの作品におけるキリスト教の影響
～The Merchant of Veniceに見られる聖書の引用句を例として～

親友バサーニオの（恐らくは結婚のための）借金の頼みに悩むアントーニオの苦悩、憂鬱は、周りにいるグラシャーノらには到底理解しえない問題であろう。しかし、神ならぬグラシャーノがこのように「神のことば」を語るとアイロニーとしてしか聞こえない。そしてアントーニオは、友情を金で解決するという善とは反対の道に進もうとしていることに対して、密かに罪の意識を感じてはいないだろうか。これと同じような状況設定が次の1幕2場のポーシャと侍女のネリッサとの掛け合いでも見られる。

3) *Por.* If to do were as easy as to know what were good to do, chapels had been churches, and poor men's cottages prince's palaces. (1.2.12-13)

ポーシャ いい行いをするのと知るのが同じくらい簡単なら、小さな礼拝堂は教会になるし、貧乏人の小屋は王侯貴族の宮殿になる。（松岡訳）

For the good that I would do not: but the evil which I would not, that I do.

(Romans. 7.19)

わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている。（もし、わたしが望まないことをしているとすれば、それをしているのは、...わたしの中に住んでいる罪なのです。）（ローマの信徒への手紙 7. 19-20）

ポーシャもまた、父の意志に従い箱選びで（父の決めた）夫を娶ることに抵抗の念をもち、かつ密かに心を寄せる相手（バサーニオ）がいることに対して罪の意識を抱いており、それが彼女の憂鬱となって現れているのである。例 4) も 3) と同様、ポーシャの悩みを表している。5) は「土から作られた人間」のたとえであり、その人間が罪を犯す存在であるということが容易に読み取れよう。

4) *Por.* The brain may devise laws.... (1.2.18-22)

ポーシャ 私だっていい行いを教えるだけならいくらでも出来る…頭は血を抑える掟を作り出すかもしれない、でも熱い血気は冷たい理性の命令を飛び越してしまう：（松岡訳）

5) *Por.* God made him, and ley him pass for a man. (1.2.56-57)

ポーシャ あれでも神様がお作りになったんだから人間の仲間に入れてあげましょう。（松岡訳）

例6) は 'neighborly charity' という言葉から容易に「隣人愛」が連想されるが、松岡訳が原文に近い訳であるのに対して、小田鳥訳は聖書の「隣人愛」の前、「復讐して

はならない」から訳を得ている点が面白い。

6) *Por.* That he hath a neighborly charity in him, for he borrow'd a box of the ear of the Englishman, and swore he would pay him again when he was able. (1.2.79-83)

ポーシャ 隣人愛にあふれてる、だってイングランド人に耳をなぐられたのにすぐにはなぐり返さず、この借りはいずれ返せるときにお返ししますって言ったのよ。(松岡訳)

ポーシャ たいへんな隣人愛の持ち主ね、だってあのイングランド人に右の頬をひっぱたかれたとき、この借りの返済にはいずれ左の頬をさしだしますと誓ったそうよ。(小田島訳)

...ye resist not evil: but whosoever shall smite thee on thy right cheek, turn to him the other also, (Matt. 5.39)

38 「あなたがたも聞いているとおり、『目には目を、歯には歯を』と命じられている。

39 しかし、わたしは言うておく。…だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。

… (マタイ5.38-39)

例7) は「懺悔を聴く」(shrive) と「妻に娶る」(wive) の韻を踏んだ例。¹³⁾

7) *Por.* If he have the condition of a saint, and a complexion of a devil, I had rather he shrive me than wive me. (1.2.129-131)

例8) から例15) までは1幕3場で主にシャイロックのセリフに用いられる引用である。例8)、9) ではMarxも指摘するように¹⁴⁾、シャイロックの積もりに積もった恨みが、悪霊を豚の中に追い払うイエスのたとえ話をとおして語られる。例9) の「ナザレ人」についての聖書の引用はマタイ2. 23, 8. 28-33, 26. 71, マルコ 5. 1-13, 14. 67, ルカ8. 26-33, 使徒2. 22, 3. 6, 4. 10, 6. 14, 26. 9などであり、松岡も同箇所を指摘し¹⁵⁾、さらに申命記14. 5-8の例をあげて「豚の汚らわしさ」の補足をしている。また例10) はアントーニオを軽蔑するシャイロックが彼を、神に赦しを請う取税人にとたとえた、と松岡は指摘する。¹⁶⁾

8) *Shy.* Yes, to smell pork, to eat of the habitation which your prophet the Nazarite conjur'd the devil into. (1.3.32-35)

シャイロック 豚肉の臭いでも嗅ぎにいくか、あんた方の預言者、あのナザレ人が悪魔を封じ込めた

Shakespeareの作品におけるキリスト教の影響
～The Merchant of Veniceに見られる聖書の引用句を例として～

って豚を食わされるのか。(松岡訳)

31) So the devils besought him, saying, if thou cast us out, suffer us to go away into the herd of swine. 32 And he said unto them, Go. And when they were come out, they went into the herd of swine: and, behold, the whole herd of swine ran violently down a steep place into the sea. (Matt. 8. 30-33)

31 そこで、悪霊どもはイエスに、「我々を追い出すのなら、あの豚の中にやってくれ」と願った。32 イエスが「行け」と言われると…豚の中に入った。すると豚の群れはみな崖を下って湖になだれ込み、水の中で死んだ。(マタイ8.30-33)

9) *Shy.* ...your prophet the Nazarite conjur'd the devil into. (1.3.34.)

23 And he came and dwelt in a city called Nazareth: that it might be fulfilled which was spoken by the prophets, He shall be called a Nazarene. (Matt. 2. 23)

…ヨセフは…ナザレという町に行って住んだ。「彼はナザレの人と呼ばれる」と預言者たちを通して言われていたことが実現するためであった。(マタイ2.23)

10) *Shy.* How like a publican he looks! (1.3.41.)

シャイロック　なんだ、あの面、まるで神様に尻尾をふった収税吏そのけだ！

13 And the publican, ... saying, God be merciful to me a sinner. 14 ... for every one that exalteth himself shall be abased; and he that humbleth himself shall be exalted.

(Luke. 8. 13-14)

13 徴税人は…言った。「神様、罪人のわたしを憐れんでください。」14言っておくが、義とされて家に帰ったのは、この人であって、あのファリサイ派の人ではない。だれでも高ぶる者は、低くされ、へりくだる者は高められる。(ルカ18.13-14)

例11) は「アントーニオ (キリスト教徒) とシャイロック (ユダヤ教徒) の対立をパリサイ人と収税吏にたとえた」とMarxも指摘しているが¹⁷⁾ 上の例10) で同箇所を扱っているので例証は省略する。また例12)～13) は旧約聖書・創世記27章、30章からの引用、14) は荒野で悪魔がイエスを試すというマタイ4章、ルカ4章からの引用であり、松岡訳でも同箇所が注で指摘されている¹⁸⁾。例15) については、シャイロックの周りのユダヤ人たちが旧約の登場人物にちなんだ名前であることをMarx, J. Grossらは指摘している。¹⁹⁾ すなわち、レア (Leah)、シャイロックの妻<ヤコブの最初の妻、ジェシカ (Jessica)、シャイロックの娘<ロト (Lot) の妹、シャイロックの友人テュバル

(Tubal) やチユス (Chus)²⁰⁾ <ノア (Noah) の息子たち、という具合である。

2.2. 第2幕における聖書引用

例16) はルカ、ヨハネの各福音書からの引用ではないか、というのが著者の推測である。両福音書で各々「救われることのないのは、悪魔に心を奪われた人」、「悪魔はユダにイエスを裏切らせ…」とあり、シャイロックと悪魔 (ユダヤ人) の関係が読み取れるからである。また例17) は、Marxも指摘しているように²¹⁾、ランスロットが目の不自由な父を騙す場面で、これは創世記においてヤコブが父イサクを騙して祝福を受ける場面と一致する。

シャイロックがSatan (悪魔) と呼ばれることに関してはSatanがヘブライ語でイエスに対する「敵対者」の意味であることを考えると納得できよう。²²⁾ 本文末の表1からわかるように、マタイ、ルカ、ヨハネ、エペソ、その他合わせて10箇所以上にその言及が見られる。

16) *Laun. the Jew is the very devil incarnation...* (2.2.22-27)

ランスロット ユダヤ人の旦那...ときたら、...ありゃ一種の悪魔だ (松岡訳)

道ばたに落ちたのは、聞いたのち、信じることも救われることもないように、悪魔によってその心から御言葉が奪い取られる人たちのことである。(ルカ 8.12-13)

悪魔はすでにシモンの子イスカリオテのユダの心に、イエスを裏切ろうとする思いを入れていた (ヨハネ13.2)

17) *Laun. ...I should stay with the Jew my master, who (God bless the mark) is a kind of devil; ...Certainly the Jew is the very devil* (2.2.35-113.)

あのユダヤ人は悪魔の生まれ変わりだ。(松岡訳)

例18) (Black Monday) と19) (Ash Wednesday) はいずれもキリスト教における記念日、20) (Jacob's staff ヤコブの杖)、21) (Hagar's offspring, ハガルの子イシマイル) に言及する創世記からの例で、これについても松岡訳の注を参照されたい。²³⁾

次の2幕7場 (例22)、9場 (例23) は、モロッコ王、アラゴン大公二人の「箱選び」の場面。これらの場面で用いられる箱のメッセージ「輝くものすべて金または銀にあらず」²⁴⁾ は、ヤコブがラバンの娘ラケルと彼にこき使われるが、しまいにはラケルと逃げ

出し、ラバンにし返しをするという創世記のストーリーに由来する、とMarxは指摘する。²⁵⁾ さらに彼はポーシャの愛を勝ち得るのがモロッコ王でも、アラゴン大公でもなく、キリスト教徒のバサーニオであること（例25, 26）を、たとえ話が理解できない「外の人々」の話（マタイ25.29-41. マルコ4.11-12その他）と対比させている。²⁶⁾

29 だれでも持っている人はさらに与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまで取り上げられる。30この役に立たない僕を暗闇に追い出せ。」（マタイ25.29-30）

11 あなたがたには神の国の秘密が打ち明けられているが、外の人々には、すべてがたとえで示される。それは『彼らが見るには見るが、認めず、聞くには聞くが、理解できず、こうして、立ち帰って赦されることがない』ようになるためである。（マルコ4.11-12）

2.3. 第3幕における聖書引用

第3幕では、例24)から30)まで7例が見られる。このうち例24)の「俺たち民族への呪い」(3.1.85)はマタイ(23.29-)が下敷きになっていることを松岡は指摘する。²⁷⁾ 例27)(3.2.75-77), 28)(3.2.78-80)については「律法に頼り、神を誇りながら、…律法を破り神を侮るユダヤ人」(ローマ2.17, 23)の例をあげながら、シェイクスピアはユダヤ人のみならずキリスト教徒に対しても警鐘を鳴らしているのでは、とMarxは鋭い観察を行っている。²⁸⁾ このことをより明確に示しているのはローマ2.13-14である。

27)-28) Bass. In law, what plea so tainted and corrupt

But, being season'd with a gracious voice,

Obscures the show of evil? In religion,

What damned error but some sober brow

Will bless it, and approve it with a text,

Hiding the grossness with fair ornament? (3.2.75-80)

バサーニオ（世の人々はいつも虚飾に欺かれる）

裁判もそうだ、どれほど汚れて腐った訴訟でも

巧みな弁舌で味つけをすれば、うわべは隠され

悪も悪とは見えなくなる。宗教もそうだ、

どんな異端邪説も神妙な顔つきで

祝福し、聖書を引き合あいに出してこれが真だと言え、

その忌まわしさもきれいな飾りで隠しおおせる。（松岡訳）

13 律法を聞く者が神の前で正しいのではなく、これを実行するものが、義とされるからです。14 たとえ律法を持たない異邦人も、律法の命じるところを自然に行えば、律法を持たなくとも、自分自身が律法なのです。…17 ところで、あなたはユダヤ人と名乗り、律法に頼り、神を誇りとし、…何をすべきかわきませています。…23 あなたは律法を誇りとしながら、律法を破って神を侮っている。
(ローマ2.13-23)

例29) (3.2.78-80) は上の27), 28)の延長にあり、箴言31.10「あでやかさは欺き、美しさはむなし。」との対比で用いられていることをMarxは指摘している。²⁹⁾ また例30) (3.5.32-36) の「ユダヤ人の娘ゆえ、天国での慈悲はない」というジェシカのセリフは、例17) でも取り上げた「ユダヤ人を悪魔と見る」考え方がここでも反映されたものである。

30 *Jes. He tells me flatly there's no mercy for me in heaven because I am a Jew's daughter...* (3.5.32-36)

ジェシカ この人、身も蓋もないことを言うのよ、私は天国へ行ける見込みはない、ユダヤ人の娘だから (松岡訳)

2.4. 第4幕における聖書引用

第4幕では例31)から43)まで13例と、全幕中で最も多い聖書からの引用例数となっている。その全ては例の「裁判の場面」に用いられた引用である。そして最初の例31)から34)までが裁判官に成りすましたポーシャの、シャイロックに対する慈悲を求めるセリフである。Marxはこのセリフが旧約聖書外典「ベン・シラの知恵」35章19節や主の祈り他を思い起こさせる、と以下のような聖書との対比を試みている。³⁰⁾ ここでは例31), 34)のみ挙げて、32)および33)はMVの該当箇所および本文末の表1を参照されたい。

31) *Por. The quality of mercy is not strain'd,
It droppeth as the gentle rain from heaven
Upon the place beneath. It is twice blest:
It blesseth him that gives and him that takes.* (4.1.184-187)

34) *...We do pray for mercy,
And that same prayer* doth teach us all to render
the deeds of mercy.* (4.1.200-202)

Shakespeareの作品におけるキリスト教の影響
～The Merchant of Veniceに見られる聖書の引用句を例として～

ポーシャ 慈悲は強いられて施すものではない、
恵みの雨のように天から降りそそぎ
地上をうるおすものだ。そこには二重の祝福がある、
慈悲は施すものと受けるものと共に祝福するのだ。
… 私たちは慈悲を求めて祈る、
その祈りそのものが私たちすべてに慈悲を施せと
教えているのだ。 (松岡訳)

17 主はみなしごの願いを無視されず、やもめの訴える苦情を顧みられる。…19その叫びは、涙を流させた者を責めている。20 御旨に従って主に仕える人は受け入れられ、その祈りは雲にまで届く。

25 (主は) 御自分の民のために裁きを行い、その憐れみをもって彼らを喜びで満たされる。26 主の憐れみは苦しみ悩むときに折よく与えられ、それは日照りが続いたときの雨雲のようである。
(シラ書【集会の書】35.17-26)

例35) はシャイロックの「自分のしたことだ、泥は自分でかぶる」(4.1.206-207) という句がローマの信徒への手紙2. 25-26との対応、36) 「名判官ダニエル様のお裁きだ！」(4.1.223) のダニエルは旧約ダニエル書の中心人物で、ポーシャが変装した法学博士バルサザー (Balthazar) はそのDanielがバビロンの宦官から与えられた名前ベルテシャゼル (Belteshazzar) に由来すると松岡は注で述べている。³¹⁾ 例37) のバラバスも松岡やまたRiverside版でB. Evansがそれぞれマタイ、ルカ、ヨハネの各箇所からの引用であることを指摘している。³²⁾

例38) から42) までの5例はMarxの指摘する³³⁾ 四福音書、ダニエル書などと対応する。(表1参照。) 特に裁判の大どんでん返しの結末となるポーシャのセリフは「ユダヤ人たちが自己正当化するときの法律が当の彼らを有罪にするという聖パウロの主張の引喩」であると結んでローマ書と対応させている。³⁴⁾

41) *Por.* Tarry a little, ...
This bond doth give thee here no jot of blood;
The words expressly are “a pound of flesh.”
Take then thy bond, ...
But in the cutting it, if thou dost shed
One drop of Christian blood, thy lands and goods
Are by the laws of Venice confiscate
Unto the state of Venice. (4.1.305-312)

ポーシャ 待て、…

この証文にはお前に一滴の血も与えてはいない、

ここに明記されているのは「肉一ポンド」。

従って、証文どおり、肉一ポンドを取れ、

だが切り取るとき、もしキリスト教徒の血を

たとえ一滴でも流せば、お前の土地も財産も

ヴェニスに法律に従い

ヴェニスの国庫に没収される。 (松岡訳)

19 …すべて律法の言うところは、律法の下にいる人々に向けられています。それは、すべての人の口がふさがれて、全世界が神の裁きに服するようになるためなのです。20 なぜなら、律法を実行することによっては、だれ一人神の前で義とされないからです。 (ローマ3.29-30)

例43)は一命を取りとめたアントーニオがシャイロックに対してキリスト教への改宗を求めるセリフであるが、キリスト教の信仰をもつことにより、その罪が赦されることを暗示しているようにも思われる。すなわちアントーニオははじめヴェニスのキリスト教徒にとって「救い」とは「(唯一の神を) 信じる」ことであり、裁判のはじめにユダヤ人に慈悲を求めた自分たちが、今度はそのユダヤ人に慈悲を示そうとしているのである。また例42)の公爵のセリフ「我々の精神がいかにおまえと違うか見せてやろう。」(4.1.368-)は「ユダヤ人がつまずいたとは、倒れてしまったということなのか。決してそうではない。かえって、彼らの罪によって異邦人に救いがもたらされる結果になりましたが、…彼らの罪が世の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのであれば、まして彼らが皆救いにあずかるとすれば、どんなにかすばらしいことでしょう。」(ローマ11.11-12) というパウロの教えそのままであることを、またMarxも指摘している。³⁵⁾

43 *Ant.* He presently become a Christian... (4.1.387)

アントーニオ (シャイロックが) ただちにキリスト教徒に改宗すること。(松岡訳)

5 不信心な者を義とされる方を信じる人は、働きがなくても、その信仰が義と認められます。

…7 「不法が赦され、罪を覆い隠された人々は、幸いである。」(ローマ4.5-7)

2.5. 第5幕における聖書引用

最後の第5幕(全2場)においては、4箇所からの例を見ることができる。最初の例44)は、天上で奏でられるがごとき美しい音楽の永遠性〔神の国〕と〔この世〕にある限り人はそれになかなか気づくことのできない、という矛盾が、ペテロの手紙2と対比

されているように思われる。これがアイロニカルに感じられるのは、このような聖書の引用を、主人公のポーシャでも、アントーニオでもない、脇役のロレンゾーがユダヤ人の父を裏切ったジェシカに語るからであろうか。

44) *Lor.* There's not the smallest orb which thou behold'st
But in his motion like an angel sings,
Still quiring to the young-ey'd cherubins;
Such harmony is in immortal souls,
But whilst this muddy vesture of decay
Of grossly close it in, we cannot hear it. (5.1.60-65)

ロレンゾー 君の目に映るいちばん小さな星屑も
空をめぐりながら天使のように歌っている、
あどけない瞳の童たちと声を合わせて。
不滅の魂のなかにはそういうハーモニーがある。
だが、やがて朽ちて土に還る肉体に
包まれているあいだは、人間には聞こえないのだ。(松岡訳)

9) 主は、信仰のあつい人を試練から救い出す一方、正しくない者たちを罰し、裁きの日まで閉じ込めておくべきだと考えておられます。10 特に、汚れた情欲の赴くままに肉に従って歩み、権威を侮る者たちを、そのように扱われるのです。
(ペテロ2.2.9-10)

例45)は、直前に「オルフェウス」が引き合いに出されていることから、ギリシャ神話に題材をとったとも考えられるが、例44)からのつながりとして見るなら、やはり天上の美しい音楽(=神の言葉、信仰)を持たない人間は救われず、というキリスト教の一般的な教義を暗示しているようにも思われる。ここでジェシカは「甘い調べを聴くと決まって悲しくなる」(5.1.69)と語るのは何故であろうか。様々な解釈が成り立つと思われるが、一つには、そのような(音楽を心にもたない)人間のひとりとして罰を受けた父シャイロックの、またその父を裏切ってキリスト教徒になった自分自身の愚かさ、後ろめたさに対して涙を流しているのであろうか。

45) *Lor.* The man that hath no music in himself,
Nor is not moved with concord of sweet sounds,
Is fit for treasons, syrategems, and spoils;

The motions of his spirit are dull as night,
And his affections dark as [Erebus]:
Let no such man be trusted. (5.1.83-88)

ロレンゾー 心に音楽を持たない人間、
美しい調べにも心を動かされない人間は
謀反、陰謀、略奪にしか向いていない。
そういう人間の心の動きは闇夜のように鈍く、
感情はこの世と地獄の境のように暗い。
そういう人間を信用してはいけない。(松岡訳)

その例45)の「暗闇の中の人間の心」とシンメトリーをなすように、ポーシャの「世を照らす光」というセリフが直後に語られる。この例46)については松岡が注でマタイ伝に言及している。³⁶⁾

46) *Por.* How far that little candle throws his beams!
So shines a good deed in a naughty world. (5.1.90-91.)
ポーシャ あんなに小さな蠟燭が、こんなに遠くまで光を届ける！
良い行いもあんなふうに悪い世の中を照らすのだわ。(松岡訳)

15 Neither do men light a candle, and put it under a bushel, but on a candlestick;
and it giveth light unto all that are in the house. 16 Let your light so shine before
men, that they may see your good works, and glorify your Father which is in
heaven. (Matt.5.15-16)

15 ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。16 そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。(マタイ5.15-16)

最後の例47)、48)についてMarxは「最後の喜ばしい結婚」と「そこに与えられた恵みのマナ」をそれぞれ黙示録とヨハネ伝、出エジプト記、民数記他からの引用と対応させている。そしてここでも「マナ」の例が単に「神への敬虔な感謝」でなく、その裏に仕組まれたアイロニーであることを示唆している。³⁷⁾ 「最後の喜ばしい結婚」とは、ポーシャとバサーニオ、ネリッサとグラシアーノ各カップルの指輪をめぐる夫婦喧嘩と和解を示しているのであろうか。そして「マナ」については、これは日本語訳の問題であるが、松岡がそのまま「マナ」と訳しているのに対して小田島は「恵みの雨」³⁸⁾として、

4幕1場の裁判官ポーシャの言葉を再度観客に意識させているところに翻訳の工夫があって面白い。

47) *Por.* Let me give light, but let me not be light,
For a light wife doth make a heavy husband,

...

Gra. Well, while I live I'll fear no other thing
So sore, as keeping safe Nerissa's ring. (5.1.129-307)

ポーシャ 私、…軽いのはいや、
だってお尻の軽い妻は夫の心を重く沈ませるから、

...

グラシャーノ さてこれで、生きているあいだは何の心配もない、
ネリッサの指輪を無事守れるかどうかは心配だが。(松岡訳)

7 わたしたちは喜び、大いに喜び、神の栄光をたたえよう。
小羊の婚礼の日が来て、花嫁は用意を整えた。
8 花嫁は、輝く清いアサの衣を着せられた。この麻の衣とは、
聖なる者たちの正しい行いである。(ヨハネ黙示録19.7-8.)

48) *Lor.* Fair ladies, you drop manna in the way
Of starved people. (5.1.294.)

ロレンゾー (シャイロックが死後遺産を自分たちに譲るという知らせを聞いて)
お二人はマナを降らせてくださる、飢えかつえた者の上に。(松岡訳)

cf. あなたがたは恵みの雨を降り注いでくださいます、かわききった喉に。(小田島訳)

「見よ、わたしはあなたたちのために、天からパンを降らせる…」 20 彼らはモーセに聞き従わず、何人かはその一部を翌朝まで残しておいた。虫が付いて臭くなったので、モーセは怒った… (出エジプト16.4-20)

今では、わたしたちの唾は干上がり、どこを見回してもマナばかりで、何もない。
(民数記11.6)

3. まとめ

以上48の例を聖書との対応において見てきたが、最後にもう一度、5幕1場のポーシャのセリフを例にとりながら、MVにおける聖書引用の意図について簡単にまとめてみたい。2.1. でも述べたように、この芝居が喜劇のジャンルに入っているにも関わら

ず、冒頭のアントーニオやポーシャは「憂鬱」の病にかかっており、またMarxが指摘するように、「終幕のキリスト教徒の勝利には暗い影が覆っている」³⁹⁾ わけだが、それは何ゆえか。例46) でポーシャは次のようにネリッサに語っている。

Por. How far that little candle throws his beams!

So shines a good deed in a naughty world. (5.1.90-91.)

ポーシャ あんなに小さな蠟燭が、こんなに遠くまで光を届ける！

良い行いもあんなふうに悪い世の中を照らすのだけわ。(松岡訳)

「悪い世の中 (a naughty world)」とはペテロがいう「汚れた世界」⁴⁰⁾ であって、主役の登場人物アントーニオ、バサーニオ、ポーシャらをはじめとした、ヴェニスの子供でさえも「汚れた情欲の赴くままに肉に従って歩み」⁴¹⁾ 「捕らえられ、殺されるために生まれてきた理性のない動物と同じで、知りもしないことをそしたり」⁴²⁾ 「昼間から享楽にふけり」⁴³⁾ 「その目は絶えず姦通の相手を求め、飽くことなく罪を重ねる」⁴⁴⁾ ような人々となる可能性があり、もしそうなれば「彼らには深い暗闇が用意されている」⁴⁵⁾ ことをShakespeareはこれを観る者にアイロニーという形で暗示しているとは考えられないであろうか。すなわち、キリスト教徒が皆、盲目的に神を信じるだけで救われるわけではなく、またユダヤの教えを忠実に守り律法を行うことを旨として生きてきた異邦人シャイロックが裁判において破れ、キリスト教徒に改宗させられても、それは「異邦人に救いがもたらされる」⁴⁶⁾ ための〈生け贄〉となったのであり、そのような人間に対しても神の慈悲がある、そのことを考えないならばたとえキリスト教徒と称しても救われぬのだ、「神の慈悲にとどまらないならば…あなたも切り取られるでしょう。」⁴⁷⁾ というメッセージをアントーニオやポーシャの憂鬱をとおして、作者自身が感じていたのかもしれない、と考えるのは深読みのしすぎであろうか。

ともあれ、今回の分析をとおして、MVにおける聖書の引用がストレートな形で観客に語りかけられるのではなく、アイロニカルな形で表現されていることは十分に証明されたように思われる。また山形はあとがきで「(Marxが)『ヴェニスの商人』をローマの信徒たちへの手紙」を基底にして読み解いている」としているが⁴⁸⁾、これはMarxの本文にパウロの引用が多いところから明かである。しかし今回の調査では表1.の最後に掲げたように、ローマ書に加え、福音書、特にマタイ、マルコの頻度が高いことも付け加えておく。

Shakespeareの作品におけるキリスト教の影響
 ~The Merchant of Veniceに見られる聖書の引用句を例として~

表1. *MV*にみられる聖書引用箇所

* 部はMarxが言及していない箇所または松岡訳で注のつく箇所

MVにおける聖書引用／言及箇所	Bibleの該当箇所
1 1.1.74-75. <i>Gla.</i> You have too much respect upon the world.	マタイ16.26 命を失ったら何の得があるか
2 1.1.97-99. If they should speak, would almost damn those ears Which hearing them would call theirbrothers fools.	マタイ5.22 (松岡p.15) 腹をたててはならない
3 1.2.12-13 <i>Por.</i> If to do were as easy as to know what were good to do, chapels had been churches	ローマ7.19. 内在する罪の意識
4 1.2.18-22 The brain may devise laws...	ローマ7.19.
5 1.2.56-57 <i>Por.</i> <u>God made him</u> , and ley him pass for a man.	創世記「神が作った人」
6 1.2.79-83 <i>Por.</i> That he hath a <u>neighborly charity</u> in him, for he borrow'd a box of the ear of the Englishman, and swore he would pay him again when he was able.	マタイ5.43-46 隣人愛 神の慈悲 または マタイ5.38-42 復讐するなかれ「右の頬をうつなら左の頬を出せ」
7 1.2.129-131 <i>Por.</i> If he have the condition of a saint, and a complexion of a devil, I had rather she shrive me than wive me.	shrive: 懺悔を聞く wive: 妻に娶るのrhyme (松岡)
8 1.3.31-32 <i>Shy:</i> 積もりに積もった恨み	マタイ8.30-32, マルコ5.1-13, ルカ 8.26-33 イエスに追い出された悪霊が豚に入りこみ、その豚の群れは海へ飛びこんだ
9 1.3.34. ...your prophet <u>the Nazarite</u> conjur'd <u>the devil</u> into.	マタイ2.23, 26.71, マルコ14.67, 使徒2.22, 3.6, 4.10, 6.14, 26.9(also松岡) マタイ 8.28-33, マルコ 5.1-13, ルカ8.26-33 (松岡) 申命記14.5-8(松岡)
10 1.3.41. <i>Shy.</i> How like a publican he looks!	ルカ18.10-14, (松岡)
11 1.3.41-42 <i>Shy vs. Anton.</i>	ルカ 18.9-13 パリサイ人vs収税吏
12 1.3.77. <i>Shy.</i> Mark what Jacob did.	創世記 27. (松岡)

13 1.3.69-97 ラバンをかついだヤコブ	創世記30.25-43 (also 松岡)
14 1.3.99-102. <i>Ant.</i> The devil can cite Scripture ...	マタイ 4.5, ルカ 4.10 (also 松岡)
15 Leah, Shy's wife. Jessica, daughter to Shy. Tubal, Chus*(3.2.285, only suggested by Jes.) friends to Shy	Jacob's first wife sister to Lot Noah's sons
16 2.2.22-27 <i>Laun.</i> the Jew is the very <u>devil</u> incarnation...	ルカ 8.12-13 「道ばたに落ちたのは、聞いたのち、信じることも救われることもないように、悪魔によってその心から御言葉が奪い取られる人たちのことである。」 ヨハネ13.2. 「悪魔はすでにシモンの子イスカリオテのユダの心に、イエスを裏切ろうとする思いを入れていた…」
17 2.2.35-113. Shylock=Satan (ヘブライ語で敵対者)	出エジプト27.18-29 ヨハネ6.70, 8.44, 13. 2, マタイ 4.1, 13.39, 25.41, ルカ 8.12, エベソ4.27, ヤコブ 3.15, 4. 7, 1ペテロ5. 8, 1ヨハネ 3.10, ユダ9, 黙示録12.9
18 2.5.25. <i>Laun.</i> Black Monday	(松岡 p. 67)
19 2.5.26. <i>Laun.</i> Ash We'n'sday.	(松岡 p. 67)
20 2.5.36. <i>Shy.</i> By Jacob's staff I swear	創世記 32.10. (松岡)
21 2.5.44. <i>Shy.</i> What says that fool of Hagar's offspring, ...?	創世記 16.
22 2.7.モロッコ王箱選び "All that glitters is not gold."	マルコ4-11-12 (山形p.226)
23 2.9. アラゴン王箱選び	マルコ4-11-12 (山形p.226)
24 3.1.85. <i>Shy.</i> The curse never fell, upon our nation till now, ...	マタイ 23.29- 35 (松岡 p.97)
25 3.2.63-72. バサーニオ箱選び "All that glitters..." 輝くもの金にあらず	マルコ4-11-12(山形p.226)<イザヤ6.9, マタイ 13.14, ルカ 8.10, ヨハネ12.40, 使徒28.26, ローマ11.8

Shakespeareの作品におけるキリスト教の影響
 ～The Merchant of Veniceに見られる聖書の引用句を例として～

26 3.2.73- バサーニオ箱選び	>理解の排他性(マタイ25.29-30,41, ヨハネ8.44.)
27 3.2.75-77. <i>Bas.</i> In law, what plea so tainted ... Obscures the show of evil?	ローマ 2.17, 23.および 2.13-14
28 3.2.78-80. <i>Bas.</i> In religion, What damned error...	
29 3.2.88-91. <i>Bas.</i> Look on beauty, ...	箴言31.30
30 3.5.32-36 <i>Jes.</i> He tells me flatly there's no <u>mercy for me in heaven</u> because I am a Jew's daughter...	ルカ 8.12-13, ヨハネ13.2
31 4.1.184-205 <i>Por.</i> The quality of mercy...	主の祈り、マタイ 5.39 外典「ベン・シラの知恵」35.26 申命記32.2
32 4.1.194. <i>Por.</i> It is an attribute to God himself...	旧約外典「ベン・シラの知恵」2.18
33 4.1.198-200. Though justice be thy plea, none of us Should see salvation.	詩篇143.2.
34 4.1.200-202. <i>Por.</i> We do pray for mercy... The deeds of mercy.	主の祈り (マタイ6.12), 「ベン・シラの知恵」28.2-4.
35 4.1.206-207. <i>Shy.</i> My deeds upon my head.	ローマ書2.25-26. (also 松岡 p.151)
36 4.1. 223. Balthazar (Portia) <i>Shy.</i> A Daniel come judgment!	= Prophet (預言者), Daniel (also 松岡 p.152-153)
37 4.1.296-297. <i>Shy.</i> Would any of the stock of Barrabas Had been her husband rather than a Christian!	マタイ27.11-26, ルカ23.17-25, ヨハネ18.39-40 松岡 p.157). RS版, foot note (p. 278)
38 4.1.321-329. <i>Por.</i> The Jew shall have all justice...	= 無実のイエス、ユダヤ人の残酷さにさらされる四福音書の裁きの場面 (マタイ26.47-27., 14.43-15. ルカ 22.47-23, ヨハネ18.)
39 4.1.333. <i>Gra.</i> A second Daniel!	ダニエル書・外典
40 4.1.335-343 <i>Por.</i> ...Take thy forfeiture	マタイ27.25
41 4.1.346-363 <i>Por.</i> Tarry, Jew...	ローマ 3.20

42 4.1.368-369 <i>Duke</i> . That thou shalt see the difference of our spirit. ...	ローマ11.12
43 4.1.387 <i>Ant</i> . He presently <u>become a Christian</u> . (Shyの改宗)	ローマ4.5-7
44 5.1.60-65 <i>Lor</i> . There's not the smallest orb... , this <u>muddy vesture</u> decay... , we cannot hear it.	ペテロ 2. 2.
45 5.1.83-88 The man that hath no music in himself, ... Let no such man be trusted. 心に音楽のない人間	マタイ5.16 (松岡), ペテロ 2. 2.20.
46 5.1.91. <i>Por</i> . So shines a good deed in a <u>naughty world</u> . 「悪い世の中 (汚れた世界)」	ローマ, 11.15
47 5.1.127-307 「最後の喜ばしい結婚」	ヨハネ黙示録19.7-8
48 5.1.294. <i>Lor</i> . Fair ladies, you <u>drop manna in the way Of starved people</u> .	黙示録19.1-9, 21.2-2, 22.12-17? ヨハネ6.50 出エジプト16.4-20, 民数記11.6-33.

聖書引用箇所頻度：

旧約／創世記: 5, 出エジプト: 2, 民数記: 1, 申命記: 3, 詩篇: 1, 箴言: 1, イザヤ: 1, ダニエル: 1, 外典ベン・シラ: 3

新約／マタイ: 13, マルコ: 5, ルカ: 13, ヨハネ: 8, 使徒: 2, ローマ: 10, エペソ: 1, ヤコブ: 1, ペテロ1: 1, ペテロ2: 2, ヨハネ1: 1, ユダ: 1, 黙示録: 3

Notes

- 1) 拙論 『Shakespeareの作品におけるキリスト教の影響～Hamletに見られる聖書の引用句を例として～』 学習院女子大学紀要第4号2002年
- 2) Steven Marx, Shakespeare and the Bible.
- 3) 拙論 『Shakespeareの作品におけるキリスト教の影響～Hamletに見られる聖書の引用句を例として～』 学習院女子大学紀要第4号2002年
- 4) Steven Marx, pp. 103-124／山形和美 pp. 199-240
- 5) 山形和美 p. 201
- 6) The Riverside Shakespeare, pp. 254-289
- 7) The Holy Bible.
- 8) 小田島雄志訳 (1983年白水社)
- 9) 松岡和子訳 (2002年筑摩書房)
- 10) 聖書 新共同訳 旧約聖書統編つき (1987年日本聖書協会)
- 11) "I know not why I am so sad." (1.1.1) 「どういいうわけだか、俺は憂鬱だ」 (小田島訳)

Shakespeareの作品におけるキリスト教の影響
～The Merchant of Veniceに見られる聖書の引用句を例として～

- 12) Marx, p. 104／山形 p. 201.
- 13) 松岡訳 p. 28
- 14) Marx, p. 104-105／山形 p. 202
- 15) 松岡訳 p. 31
- 16) *ibid.* p. 32
- 17) Marx, p. 108／山形 p. 208.
- 18) 松岡 p. 31
- 19) Marx, p. 105／山形 p. 200. J. グロスはジェシカ (Jessica) がダビデの父でイエスの先祖であるエサイ (Jesse) を思わせる響きがある、と述べている。(p. 83)
- 20) チュス (Chus) はジェシカによって言及されるだけで (3.2.285)、実際には舞台上に登場しない。
- 21) Marx, p. 115／山形p. 222
- 22) 聖書理解和英小事典 p. 79
- 23) 松岡訳 p. 67
- 24) "All that glisters is not gold." 「輝くもの必ずしも金ならず」 (2.7.65)
- 25) Marx, p. 117／山形 p. 226
- 26) *ibid.*
- 27) 松岡訳 p. 97
- 28) Marx, p. 116／山形 p. 225
- 29) *ibid.*
- 30) *ibid.* p.114／p. 220. またP. Milwardも同じ聖書の箇所をすでに指摘している。(p. 222)
- 31) 松岡訳 p. 152
- 32) *ibid.* p. 157. B. Evans, p. 278
- 33) Marx, p. 108／山形 p. 208
- 34) *ibid.*, p. 109／山形 p. 210
- 35) *ibid.*
- 36) 松岡訳 p. 177
- 37) Marx, p. 119／山形 p. 230
- 38) 小田島訳 p. 178
- 39) Marx, p. 123／山形 p. 239
- 40) 2ペテロ2.4. 「神は、罪を犯した天使たちを容赦せず、暗闇という縄で縛って地獄に引渡し、…」
同2.17 「彼らには深い暗闇が用意されている…」
- 41) 2ペテロ2.10
- 42) *ibid.* 2.12
- 43) *ibid.* 2.13
- 44) *ibid.* 2.14
- 45) *ibid.* 2.17
- 46) ローマ11.11
- 47) *ibid.* 11.12
- 48) 山形 p. 318

参考文献

- Steven Marx, Shakespeare and the Bible (Oxford University Press, 2000)
The Holy Bible (The Gideon's International, 1961)
The Riverside Shakespeare (Houghton Mifflin, Boston, 1974)
Marvin Spevack, The Harvard Concordance to Shakespeare (Georg Olms Verlag Hildesheim, 1973)
Alexander Schmidt, Shakespeare Lexicon and Quotation Dictionary, 2vols. (Dover Publications, New York, 1971)
S・マークス『シェイクスピアと聖書』山形和美訳(日本基督教団出版局2001年)
ピーター・ミルワード『シェイクスピアの人生観』安西徹雄訳(新潮選書, 1985年)
ジョン・グロス『ユダヤの商人シャイロク』富山太佳夫・越智博美訳(青土社, 1998年)
『ヴェニスの商人』小田島雄志訳(白水社Uブックス, 1983年)
『ヴェニスの商人』松岡和子訳(ちくま文庫, 2002年)
『口語訳聖書コンコルダンス』(新教出版社, 1978年)
ジョン・ボウカー『聖書百科全書』荒井 献・池田 裕・井谷嘉男監訳(三省堂, 1998年)
志村 武『聖書理解和英小辞典』(南雲堂, 1981年)
『聖書 旧約聖書続編つき 新共同訳』(日本聖書協会, 1987年)

(本学教授)